

は じ め に

平成 23 年 3 月 11 日、今までの本校の安全教育の在り方を再考させられるような未曾有の自然災害、東日本大震災が起きました。多くの子どもたちの命をも奪い去ったこの大災害を、学校の危機管理に不安を抱いた天の声として受け止めざるを得ません。特に、東海・南海・東南海の三連動地震がこの地域を襲うことが予想されている今、より一層の防災教育の充実に努めよということなのでしょう。災害時に、一人一人がどういった行動を取るべきか。学校として何をなすべきか。本校では、東日本大震災を「遠くの悲劇」ではなく「身近な備え」への教訓として防災教育に取り組むことにしました。

23 年度は、震災直後ということで、自然災害の怖さ・悲惨さを伝え、防災に対する意識改革を図りました。ほとんどゼロからの出発ということもあって、暗中模索の取組でした。

24 年度は、半田市教育委員会より委嘱を受けたことで、より多くの外部指導者、地域の教育力を活用させていただくことができるようになりました。また、名古屋大学減災連携研究センターの防災教育スーパーバイザーである近藤ひろ子先生にご指導を受けることができ、研究の方向性が明確になりました。「命の大切さや尊さを知ること」、「自分の命は自分で守ること」、「人のためにできることをすること」を柱として、実践研究に取り組みました。初年度ということで、とにかく「何でもあり」の研修や体験活動に、子どもも教職員も一緒になって励みました。非常用持ち出し品や救急法に興味をもつようになり、親子会議を開くなど、子どもから親への広がりも見え始めました。児童の有志による防災隊の結成、一泊二日の避難所体験、防災学習運動会など、新たな実践にも取り組みました。

25 年度は、これまでの学習の成果をまとめたものや防災グッズなどを展示した「防災学習室」を設置して、いつでも、誰でも、防災について学べる場所としました。子どもや保護者、地域の方が、機会あるごとに入室して、鑑賞・体験している姿をよく見ることができました。また、学習を進める中で、家庭や地域との連携が深まるとともに、防災の備えが家庭や地域に着実に進んでいることを実感することができ、本研究の成果として、大変うれしく思っています。

今回「防災教育」の実践研究発表をさせていただきますが、試行錯誤しながらの取組で、まだまだ未熟なところが多くあります。ご出席の皆様から忌憚のない厳しいご指導を賜り、これからの亀崎小学校教育の充実・発展に努めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、本校の実践研究を進めるにあたり、ご指導・ご助言をいただきました近藤ひろ子先生をはじめ、半田消防署、亀崎地区自主防災会、亀崎南消防団、半田市防災交通課、半田市教育委員会など、関係諸機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成 25 年 1 1 月

半田市立亀崎小学校長 木村 孝之